

『大腸がん治癒切除後の予後予測ノモグラムの開発』について

大腸がんの手術後には、ある一定の割合で再発が起こります。再発を起こす確率は、手術が行われた時点でのがんの進行度（ステージ）やがん組織の特徴など、さまざまな因子が複合的に影響します。

欧米では、乳がん、前立腺がん、大腸がんなどの分野で、複数の因子から再発の可能性の予測値（再発リスク）を計算するシステムが開発されています。1つの因子から予測するよりも精度が高く、また、1つの数字（%）として示されるので分かりやすいというメリットがあります。しかし、これらの海外のシステムは欧米の治療データをもとに作られているため、日本の大腸がん患者さんには必ずしも当てはまりません。

そこで私たちは、日本の患者さんのデータを用いて、日本の患者さんのための「大腸がんの手術後の再発リスクを計算するシステム」を開発することを目的に、研究を開始することとしました。

● 調査の方法

調査を行う施設： 大腸癌研究会に参加する以下の19施設（医療機関）
 対象となる患者さん：2007年1月～2008年12月に、これらの施設で手術を受けたステージⅠ・Ⅱ・Ⅲ大腸癌の患者さん
 調査項目：手術時年齢、性別、病変の部位、術前の腫瘍マーカー値、ステージなどの病状、リンパ節郭清度、術後補助化学療法などの治療に関する情報、再発の有無、再発の部位などの手術後の経過に関する情報

調査データは、個人を特定する情報をいっさい含まない形で、研究事務局に集められます。
 ※この調査により新たな検査や負担は発生しません。



この研究に参加している医療機関から集められたこれらのデータをもとに、個々の患者さんの病状や受けた治療などの因子から、予想される「再発リスク」を計算するシステムを作ります。（“ノモグラム”という方法を使います）

このようなシステムが完成すれば、現在よりも高い精度で個々の患者さんの再発リスクを予想することができ、手術後に追加の抗がん剤治療（補助化学療法）を行うかどうかなどの治療方針を決める際に、大変役に立つ情報となります。

■ 調査を行う施設の一覧

国立がん研究センター中央病院 大腸外科	東京医科歯科大学 大腸・肛門外科
防衛医科大学校 外科	帝京大学 外科
愛知県がんセンター中央病院 消化器外科	杏林大学 消化器・一般外科
札幌医科大学 第一外科	慶応義塾大学 一般・消化器外科
新潟大学 消化器・一般外科	藤田保健衛生大学 消化器外科
栃木県立がんセンター 大腸外科	京都大学 消化管外科
東京女子医科大学 第二外科	大阪府立成人病センター 消化器外科
国立国際医療研究センター戸山病院 下部消化管外科	久留米大学 外科
東京大学 腫瘍外科	がん・感染症センター 都立駒込病院 外科
兵庫医科大学 下部消化管外科	

● 調査の対象となる患者さんへ

1. この調査で集められるデータは、カルテ等 あなたが治療を受けた医療機関にすでに存在する情報のみを使用します。この調査により新たな検査や負担は発生しません。
2. 事務局に集められた情報から、あなた個人が特定されることはありません。
3. この研究の結果は、学術雑誌や学会にて発表し、大腸がん診療の進歩に役立てていくこととなりますが、公表する際にも個人情報を使用されることはありません。
4. この調査は「疫学研究に関する倫理指針」を遵守して行います。大腸癌研究会の倫理委員会において、この調査の対象となった方の不利益にならないことや医学の発展に役立つ情報が得られることが確認され、承認を受けています。

● ご協力 よろしくお願ひします

この調査で使用するデータは、カルテ等 あなたが治療を受けた医療機関に、すでに存在する情報のみを使用します。この調査により新たな検査や負担は発生しません。

調査の趣旨をご理解いただき、この調査にご了解を賜りますようお願いいたします。

※ この調査でのデータの使用を希望されない場合や、途中からデータの使用取りやめを希望される場合は、下記の「お問い合わせ先」にご連絡ください。

● お問い合わせ先

この研究は、大腸癌研究会のプロジェクト研究の1つとして行われます。

→ プロジェクト研究についての詳細はこちら：

大腸癌研究会ホームページ <http://www.jscrc.jp/project/index.html>

研究実施責任者：金光幸秀（国立がん研究センター中央病院 大腸外科）

お問い合わせ先

大腸癌研究会事務局

〒102-0075 東京都千代田区三番町2 三番町KSビル

電話 03-3263-8697 FAX 03-3263-8693 E-Mail: jscrc@secretariat.ne.jp